

文芸誌

2017.8.3発行
Vol.5

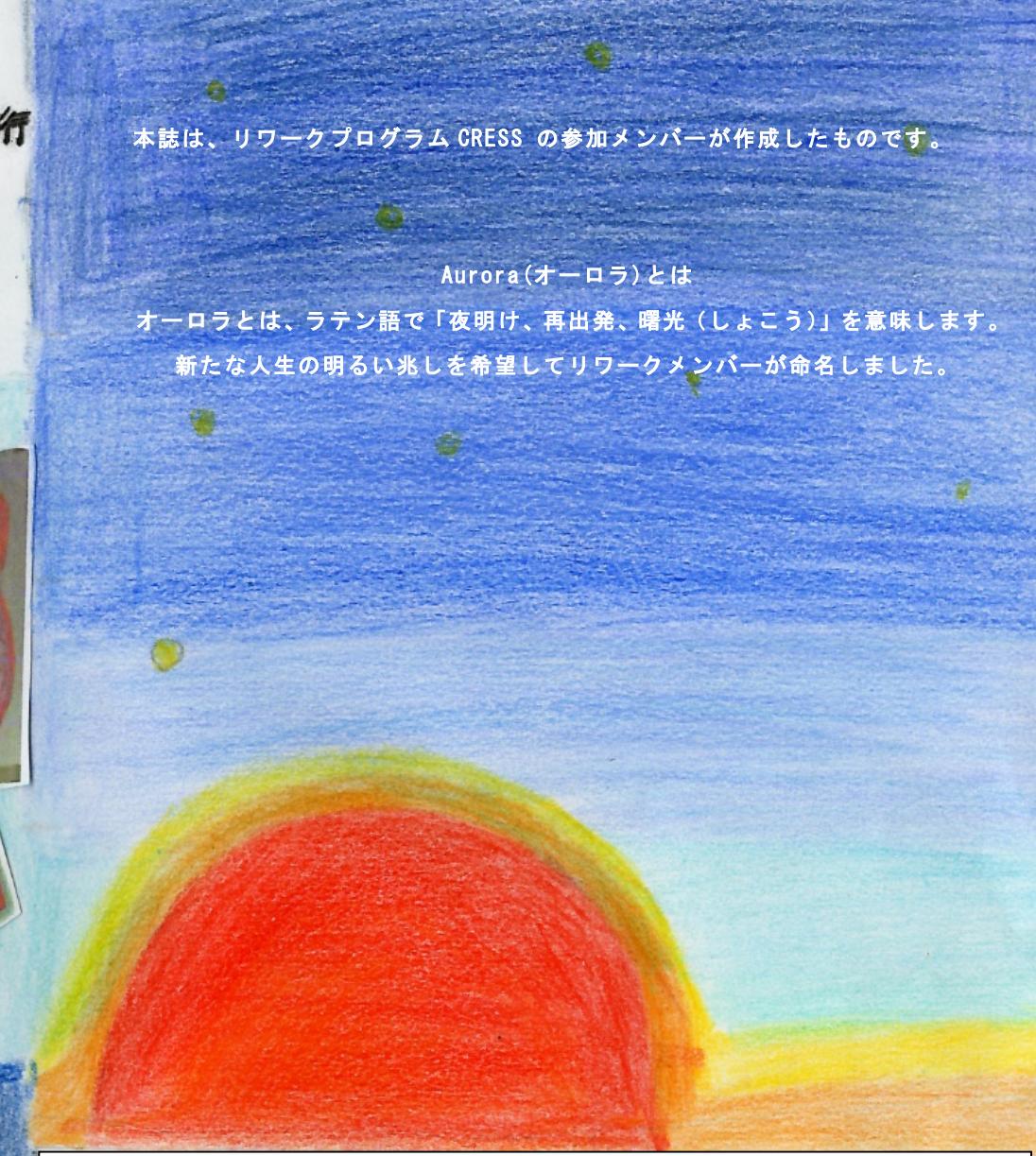
aurora



本誌は、リワークプログラム CRESS の参加メンバーが作成したものです。

Aurora(オーロラ)とは

オーロラとは、ラテン語で「夜明け、再出発、曙光（しょこう）」を意味します。
新たな人生の明るい兆しを希望してリワークメンバーが命名しました。



こころのクリニック和 ～なごみ～

リワークプログラム CRESS

〒541-0054 大阪市中央区南本町 2-2-9 辰野南本町ビル 1 階

TEL: 06-6226-7463

クリニック HP: <http://nagomi-kokoro.com>

リワーク BLOG: <http://kokoronagomi-cress.blogspot.jp>

文芸誌 Aurora を手にされた方へ

文芸誌 Aurora（オーロラ）第 5 号を手にしていただき、ありがとうございます。

文芸誌 Aurora を制作したのは、復職を目指してリワークプログラム CRESS（クレス）に参加しているメンバー達です。リワークプログラム CRESS には、うつ病など心の病で休職に至った方たちが集い、復職に向けたプログラムに日々取り組んでいます。

CRESS には「グループ作業」というプログラムがあります。職場と同じように、メンバー同士で協力して仕事をするのです。「グループ作業」でのコミュニケーションを通じて、復職に必要となる自分の課題を発見します。そして、相手を理解する機会を得ます。力を合わせて仕事をする喜びを体験します。

また、CRESS には、アートセラピー（芸術療法）というプログラムがあります。芸術作品の創作を通じて、メンバーが自己と対話するプログラムです。作品の中に表現された自分自身を知る時間です。そして、相手の作品を通じて、相手を理解する時間です。

文芸誌 Aurora とは、「アートセラピー」で創作した作品を、「グループ作業」の協働作業によって、一つの作品集として完成させたものです。作品に表現されたメンバーの心の世界が、グループ作業の仕事を通じて、ここに収録されています。

リワークに関心をお持ちの一人でも多くの方に、文芸誌 Aurora が届くことを、願っています。

スタッフより

リレー小説とは

最初の人が小説の「タイトル」と「書き出し」を決めます。次の人気が前の文章に続く物語を書いていきます。

ライブ感を大切にし、一人の制限時間を10分としました。順番に廻して行き、思いついた人が小説を完結させます。完結するまでリレーは続きます。

前の文章に素直に従って書く人、とんでもない展開に持っていく人など、いろいろな書き手の個性が出てきます。

それぞれ書き手によつて色を変えています。

なお、今回の作品は「夏」をテーマとしました。

「汗」

汗をかくのが大キライだった。ベタベタが嫌で、夏でも長袖。

それでも汗はわりてくる。

けど汗をかくとスッキリする。

携帯用のシャワーがあれほいのに。

私はびしぶしふぶやきながら田んぼの畦道を歩いていた。

近くでカエルの鳴き声がする。もうすぐ夏が終わってしまう。

『チリンチリン』どこかで風鈴の音がする。鈴と言えば

ドラえもん。

ドーラえもんといえばタケコ。アター。

びゅ〜んと飛んで、さーさーとシャワーを浴びて、またどこかで汗をかこう。次はどこに行こうかな!

夕顔

朝顔よりは小さくて目立たない、夕顔。

白くて可憐、夕方に一抹の涼を感じさせてくれる。

更に夕立で降り涼倍増。

ん？ たしか古文に夕顔って名前の人があったようだ。

柴式部に聞いてみよう。

昔はよく百人一首で遊んだ。遊び相手は決まって妹だった。

妹の顔か思い浮かばないな？

丸顔で面長で、ニヨート？ ロング？

夕顔のようだ。かわいがったなあ！

「海水浴」

こどもの頃、家族で海水浴に出かけた覚えがない。

出かけるならもうら山だった。

「うか行きたいと思いつつ、その夢はなかなか叶わない。

その後、川へ泳ぎにいった。

「つか行きたい！」けど、「うか」かと言っても「うか」はやって来ないよ。

川から海まで泳いでやろうか？

川と海の境目はどこのだらうか。その境を越えると、急にしゃばくなるのだらうか。不思議な気分になった。

そうだ！ 私は、淡水浴に出かけたことしかないのだ。

「くも」

たち上ぼる空氣。湧き立つ想い。どこにこの想い
をはき出せばよいのか?

熱い空氣、流れる川、どこの
体を休めねばよいのか?

荒れ狂う海、休めるところなどない。
そんな地上にはお構いなしに、雲は悠々とたゆたう。

そのうちエネルギー蓄え、雨降らす。

ひときんと雲をいたいに、雲にのってフワフワとのんびり漂つてみたが。
どこまでも飛んで行ける。

僕は背後を振り返った。雨は上がり、太陽の光以外何一つ
見えない。あの雲モ。太陽の視線を背に、僕は再び歩き出した。

「そうめん」

断つておくが、これは怪談ではない。大学2回の夏だつた。
そう、あの暑く・熱く・厚かった夏。頭のてっぺん
に「めん」凸がビシツと入つた。

「めん」といえば、三輪、揖保、そして
山豆島。

小豆島といえば、オリーブもそう。
繰り返し断つておくが、これは怪談ではない。

小豆島は岡山ではなく香川県である。

香川県と言えばうどん県!!

しかしオリーブに合うめんは、ラーメンだ。
そう、めんはいつもあなたのもとにいるのです。

「団扇」

暑い夏の必需品。

僕は団扇が嫌いだ。風が当たってもちと涼しくならない。
内輪もめなら、とても涼しく悲しい気持ちになるか。

楽しい気持ちなら、夏の夜祭りだ。

夏の夜祭りは屋台が来しみだ！、焼とうも

ろこしに、にこ焼き、ビール！、

お祭り、浴衣の帯に狹まれた団扇が風流だった。

最近は自均で極類もたくさん売られている。

エアコンは涼しい、扇風機も便利で楽ケーニケビ
やつぱり団扇は風情があって良い物だね。

「ピアガーデン」

今日は待ちにまつたピアガーデン、雨じゃなくて本当によかったです！

気の合う仲間と飲むビールは、本当に美味しい。

残業も早く切り上げ、私は仲間の待つピアガーデンへ飛んで行った。

ここは庭なのか？ガーデンにはよく言ったものだな。西日
が高く、涼しくならがないではと錯覚する抱く。

ツマミのカラアゲ、ホテトも待ちキレず
ジョッキを持ち上げる。

一口飲んだ瞬間、くらくらしてすべてが曇昧になる。

アルコールではなく、このピアガーデンの空気に我らは酔うのだ。
そんな快樂を求めて我々もピアガーデンへ。

「海水浴」

夏休み、今日は真夏日海へ行こう!!

ビーチボールたうちわに空気入れに…。あー、水着を忘れない様に天気も良いし、サンオイルも持つていこう

海へ行くのはかれこれ5年ぶりになる。5年前、私は今とは別の会社で働いていた。

今、海に行つてもあの会社のことは…。あー! はんべんに乗つていた。

はんべんに、ちくわ、ここんにやく、がんもどき。

今はまだ夏だよー、おでんはムシムシ。

そして今、私は今、家族・今の同僚と共に海にいる。

この日の穂やかさ、麗しさよ。いま私は幸せだ。

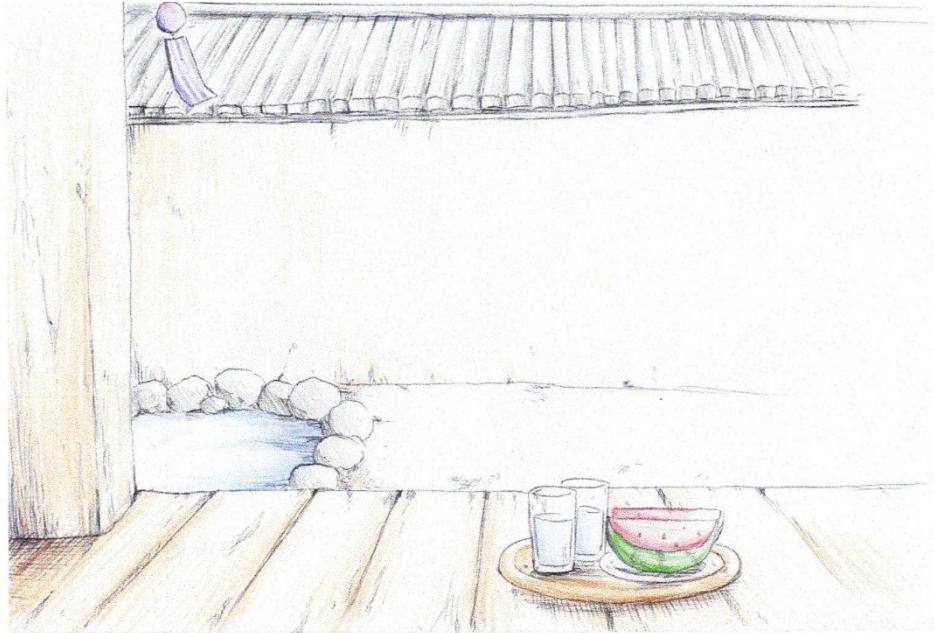
物語療法とは

参加者がグループに分かれて、各々が自由にイラストを作成し、そのイラストを用いて各々が物語を作つていく療法です。

イラストはあらかじめテーマを設けず、好きに描いていきました。

- ・共通のイラストを使ったのに、全く別の物語が出来たり、似通つたりしておもしろかったです。

- ・系統の違うすべてのイラストを使ってひとつの中話にするのが難しかったです。



夏の思い出。



「今年の夏も終わりが…」

都會に来て早三年、

始める正社員に二人せながらし、

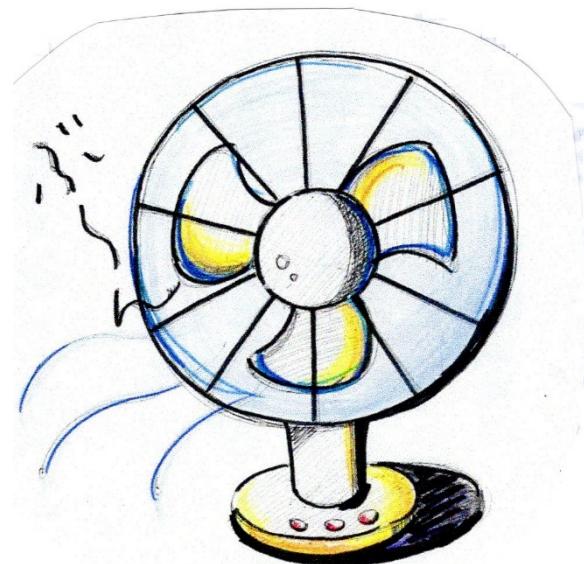
両親との往來…色々なことがあた。

そんな中でも夏祭りに行ったり

旅行したり。毎年夏は
乗じんぐいたけれど…

今年は休戦をしてる身。

「何かしたくても、何もできないなー」



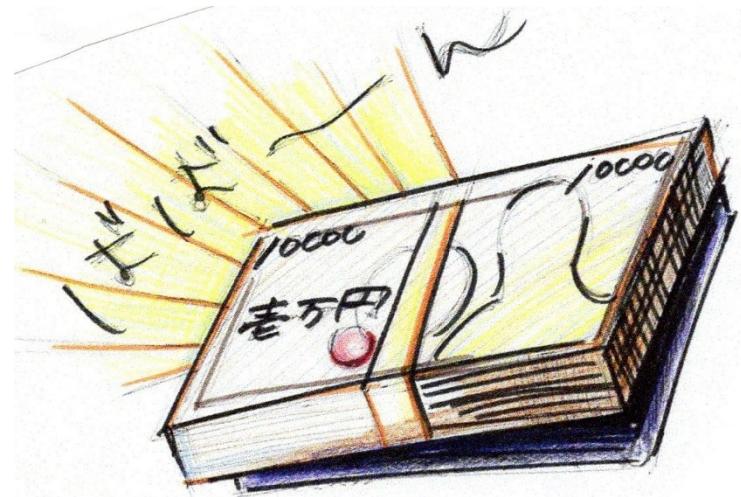
ふと、目の前に札束が現れた。

「宝くじで当たったんだ」

彼女さんが嬉しそうに差し出す。

(今まで買ったことないこのたの上、
急にどうしたんだろう？)

「今年は何もできてないし、
これでハーパーと迷ひじゃあうー」



乾杯

まあ、近所の居酒屋さんに
飲みに行った。

二つの好きな焼鳥屋さんだ。

(飲みに行くなって、かいがん
してなが、下なまえ…)

二人でお酒を飲んで話して、
なんだか嬉しかった。



次の日、シガレーテモールへ行って、
ふとある宝石に目が行った。
「せ、なぜだ、この宝石をやがば？」



私は
生まれて一の生だ。宝石を
貰ったことがない。
高級な宝石の専門店で、
気が向いた宝石を一つ買ひてみた。
ちょうどオーバーな感じにならなかった。



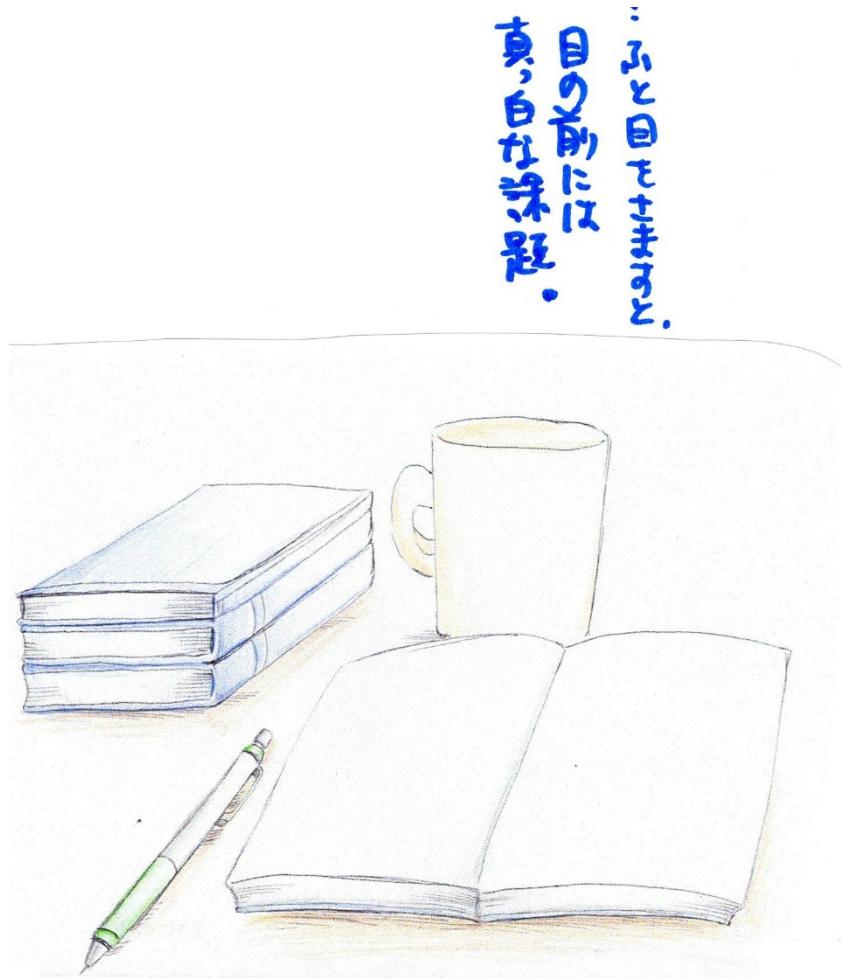
翌日、彼せりふの部屋から
ヘンダソント弾いてしまったがした。
「無理を弾いた」となーかぐ
ヤーフたへー」

私も借りておんのま
弾いてみた。

わからぬなりに、二人で
試行錯誤して挑戦するのは
樂しかった。

Mandolin





「ふと目をさめると、
田の間に
真っ白な跡題。」

「彼汗さん！
ちゃんと外行こう！」

「結構今は
何モでキナガトナ
リヤ。今がんたも
遅くない。
(何が?)
夏、涼いもの(ノ)」
ふと柳を漁(ア)と
ミケをつけて。

「夙々にあどマヒタ。

「うん
某(ハ)ニナシ
既(ハ)アドキニナシ
夙々ニアドキニナシ」

「大丈夫?・

「うん」

「大丈夫?・

「うん」

「大丈夫?・

「うん」

「大丈夫?・

「うん」

「大丈夫?・

「うん」

「大丈夫?・

「うん」



またある日は、
散歩をしてる猫に出会った。
私はかと猫を飼って
みたがた。

経済面と十何年も
責任をもて世話をじて
あげらるのか?

どう不安が今まで

躊躇してたけど、

「大丈夫?・

「うん」

「大丈夫?・

「うん」

丘の公園で。

二人だけの手持ち花火。

緑色花火は少し泣けていたけど。

(「ふるえも、恐くなーー。」)

まつりにいた今年の夏やった。

